

む

つ

市

基

地

政

策

方

針

む

つ

市

目 次

1. むつ市基地政策方針の概要	4
(1) 基地政策方針の策定の趣旨	4
(2) 基地政策方針の位置づけ	5
(3) 基地政策方針の見直し	5
2. 市に所在する自衛隊基地の概要	5
(1) 海上自衛隊大湊基地（大湊地区隊及び第25航空隊）	5
(2) 航空自衛隊大湊分屯基地（第42警戒隊）	6
3. 基地政策に係る基本理念	7
4. 基地政策の方向性	7
(1) 国が講じる防衛政策への協力及び支援	7
(2) 自衛隊員や隊員家族等への支援	8
(3) 自衛隊基地の所在地であることを生かしたまちづくりの推進	8
5. 基地政策の方向性に基づく取組	9
(1) 「国が講じる防衛政策への協力及び支援」への取組	9
(2) 「自衛隊員や隊員家族等への支援」への取組	10
(3) 「自衛隊基地の所在地であることを生かしたまちづくりの推進」への 取組	11
6. 関連団体との連携体制	14
(1) 自衛隊基地が所在する他自治体との連携	15
(2) むつ市議会との連携	15
(3) むつ商工会議所、下北・むつ市企業連携協議会等の商工団体との連携	15
(4) 自衛隊関連団体との連携	16
参考資料	17

1. むつ市基地政策方針の概要

(1) 基地政策方針の策定の趣旨

市には、海上自衛隊大湊地区隊及び第25航空隊が配置されている海上自衛隊大湊基地と第42警戒隊が配置されている航空自衛隊大湊分屯基地が立地しています。

市と海上自衛隊の間には明治35年の旧海軍大湊水雷団の開庁以来120年以上、また、市と航空自衛隊の間には昭和30年に北部訓練航空警戒隊大湊派遣隊が移駐されてから70年以上もの歴史があり、市と自衛隊は長きにわたり共存してきました。

現在、我が国の周辺には、強大な軍事力を有する国家が集中し、軍事力の更なる強化や軍事活動の活発化が顕著となっており、安全保障環境が緊迫度を増している中で、海上自衛隊大湊基地及び航空自衛隊大湊分屯基地の「北方の要衝」としての重要性は極めて高くなっています。このような状況の中、国が防衛力の強化を進めるためには、立地地域の更なる理解・協力が不可欠です。

また、自然災害が頻発化及び激甚化している昨今、三方を海に囲まれ、急峻な傾斜地が多い等の地理的要因から地震、津波等により孤立するリスクが高く、災害に対して脆弱な半島地域に住む私たちにとって、自衛隊は大変心強い存在です。自衛隊に対する市民の期待も高く、現に、下北半島におけるこれまでの様々な災害等の危機的状況に対し、迅速かつ的確に救援活動を実施するなど、地域のいのちを守る活動に尽力していただいています。

自衛隊は、私たちむつ市にとって大切な「家族」です。

私たちは、我が国の防衛はもとより、国際平和協力活動、大規模災害における災害派遣、そして地域振興等の幅広い分野で活動する自衛隊員を誇りに思い、自衛隊員が任務に専念できるよう、地域を挙げて支え、寄り添い、協力し、ともに歩み続けてまいりました。

これからも、自衛隊基地が所在することによる「地域の特性」を生かし、「自衛隊のまち」として「共生・共創・共栄」を推進するという理念の下、長期的な視点に基づいてまちづくりを進めていきます。

以上のことから、市の基地政策に係る方向性を明確にし、持続可能な地域づくりを推進していくために「むつ市基地政策方針」を策定します。

(2) 基地政策方針の位置づけ

「むつ市総合経営計画」を基地政策の面から補完し、「基地との共生・共創・共栄」を推進するための基本的な考え方や取組を示すものとして位置づけます。

(3) 基地政策方針の見直し

基地政策に関する取組は、長期的な視点に基づいて進める必要がある一方で、我が国の安全保障環境を始めとする社会情勢の急激な変化が生じることも考えられることから、本方針は、必要に応じて内容の見直し等を行うこととします。

2. 市に所在する自衛隊基地の概要

(1) 海上自衛隊大湊基地（大湊地区隊及び第25航空隊）

海上自衛隊大湊基地は、明治35年に海軍大湊水雷団が開庁し、昭和28年に警備隊大湊地方隊として発足して以来、青森県以北の海上を警備区とし、宗谷海峡及び津軽海峡という戦略上重要な海域の防衛警備に当たっています。

海洋安全保障の確保のため、海上自衛隊は、平素からの警戒監視活動等に加え、武力攻撃等の有事に備えた防衛体制の整備、海賊対処行動を始めとした国際的な貢献活動に取り組み、加えて、国内外の大規模災害への対応等その活動範囲は拡大・多様化しており、我が国の防衛政策における「北方の要衝」として機能してきた大湊基地の重要性は極めて高くなっています。

また、国内で初導入となる、艦艇に搭載し、我が国周辺海域の警戒監視・情報収集を行う艦載型無人アセット（UAV）「V-BAT」の運用に当たり、令和8年度から操作員教育の実施場所として、大湊航空基地を使用することが計画されています。

【北の防人の歩み（海上自衛隊大湊基地関連）】

明治35年	大湊水雷団開設（横須賀鎮守府管理下）
明治37年	日露戦争開戦
明治38年	日露戦争終結
	大湊要港部に昇格し青森県以北の海域防衛を担当
大正3年	第一次世界大戦開戦
大正7年	第一次世界大戦終結
昭和8年	大湊海軍航空隊開設

昭和16年 大湊警備府に格上げ
太平洋戦争開戦

昭和20年 大湊空襲、太平洋戦争終結

昭和28年 保安庁警備隊大湊地方隊創設

昭和29年 防衛庁が創設され、海上自衛隊創設

昭和31年 大湊航空隊編成

昭和56年 下北海洋観測所開設

平成20年 大湊航空隊が第25航空隊に改編

令和7年 3月24日に横須賀地方隊に統合され、大湊地区隊に組織改編

(2) 航空自衛隊大湊分屯基地（第42警戒隊）

航空自衛隊第42警戒隊は、令和7年2月に部隊創設70周年を迎えました。

北海道及び北東北地域の防空を任務とする北部航空方面隊に属しており、本州の最北端である下北半島中央部に位置する釜臥山の山頂に、新型警戒管制レーダーJ/FPS-5（通称：カメラレーダー）を設置しています。このカメラレーダーは、国内に4基のみ配備されており、弾道ミサイルの探知及び追尾に対応した最新鋭のレーダーです。

日本海及び太平洋上の空域において、我が国周辺における他国の航空活動を24時間、365日監視することを任務として、もって日本の空の安全に寄与しています。

【北の防人の歩み（航空自衛隊大湊分屯基地関連）】

昭和29年 米空軍レーダーサイト建設

昭和30年 北部訓練航空警戒隊大湊派遣隊が移駐

昭和35年 米国空軍から航空自衛隊へ運用が移管

昭和36年 7月15日に第42警戒群に組織改編

昭和55年 J/FPS-2運用開始

平成21年 J/FPS-5本体工事開始

平成23年 J/FPS-5運用開始

令和3年 7月1日に第42警戒隊に組織改編



3. 基地政策に係る基本理念

今後の市における基地政策に係る基本理念を次のとおり定めます。

「基地との共生・共創・共栄」

我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑なものとなっており、現在、日本の防衛力の抜本的強化が推進されています。

市は、長年にわたり自衛隊基地と共存してきた歴史を踏まえ、この国の動向も見据えながら、自衛隊基地が担う防衛・災害対応等の役割を地域の重要な基盤として位置づけ、自衛隊基地と地域がお互いに尊重し、支え合う「共生」を土台とし、市・自衛隊・市民・事業者が連携して自衛隊基地が所在するという特性を生かした新たな価値や取組を生み出す「共創」を進め、地域の安全・産業・活力の発展につながる「共栄」を目指します。

これにより、市と自衛隊が、平時から有事・災害時まで切れ目のない、より強固な協力関係を築き、自衛隊の活動を支え、持続可能な地域づくりを推進し、もって地域の活性化及び市勢の発展につなげていきます。

4. 基地政策の方向性

防衛省・自衛隊の任務・役割は、我が国の防衛はもとより、国際平和協力活動、各種災害への対応、そして地域社会との調和等幅広い分野にわたっています。我が国の平和と安全を守るため、また、安全保障環境の急速な変化への対応も求められており、その任務は、今後ますます多様化及び拡大していくことが見込まれています。

市には、長きにわたり防衛施設と自然豊かな地域資源が共在しておりますが、これから先も「共生・共創・共栄」の理念の下、連携していくため、自衛隊基地との関係性や方向性を次のとおり示します。

(1) 国が講じる防衛政策への協力及び支援

市に所在する自衛隊基地は、「北方の要衝」として我が国の防衛政策上の重要性が高く、その果たす役割は今後ますます大きくなっていくものと考えられます。

そのような状況の中で、市としては、国防への協力と市勢発展は一定の相関性があると認識しています。

市では、これまでも国が講ずる防衛政策に対して積極的に協力してきましたが、これらの支援等を継続するとともに、国が進める防衛施設の強靱化や自衛隊の人的基盤の強化等に対する新たな支援等について、市民生活への影響を考慮しながら検討していきます。

(2) 自衛隊員や隊員家族等への支援

市では、自衛隊員や隊員家族にとってより良い環境の整備に取り組んでいます。

我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛するという崇高な任務に強い使命感を持って従事する自衛隊員を大切な「家族」として誇りに思い、その任務に専念できるよう地域を挙げて支えてきました。

今後も自衛隊員や隊員家族等がこの地で安心して暮らせるよう支援の充実を図っていきます。

(3) 自衛隊基地の所在地であることを生かしたまちづくりの推進

自衛隊基地が所在するという事は、市が誇れる代表的な「地域特性」の一つであります。産業や雇用の創出、一定数の人口維持、地元事業者への発注等、あらゆる面で効果がもたらされており、市民生活に与える影響も大きくなっています。

市民にとって自衛隊は身近な存在であり、これまでも積極的に交流が図られてきましたが、今後も市民が自衛隊基地の所在による効果を実感し、より生活を向上させていくために、「自衛隊のまち」として「共生・共創・共栄」を推進するという理念の下、長期的な視点に基づいてまちづくりを進めていきます。

なお、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づく、民生安定施設の整備に係る助成や特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用し、市民生活の安定及び福祉の向上に取り組めます。



防衛施設周辺民生安定施設整備事業補助金を活用して建設したむつ市防災食育センター

5. 基地政策の方向性に基づく取組

基地政策の方向性に基づいて実施する具体的な取組については次に掲げるとおりです。実施に当たっては、これまで以上に自衛隊との連携を深めていきます。

また、基地政策の方向性「(3) 自衛隊基地の所在地であることを生かしたまちづくりの推進」への取組については、「自衛隊のまち」として自衛隊基地を有する「特性」を積極的に生かし、「地域の安全」、「地域の経済」、「地域の活力」の3つの視点で様々な施策に取り組んでまちづくりを展開し、地域の活性化及び市勢の発展を目指します。

取組を推進するに当たっては、防衛施設の設置又は運用による障害の防止等のための財政的優遇措置として国から交付される民生安定施設の整備に係る助成や特定防衛施設周辺整備調整交付金などを積極的に有効活用していきます。

(1) 「国が講じる防衛政策への協力及び支援」への取組

① 防衛政策への協力及び市民の理解促進への取組

市では、これまでも練習艦隊や掃海訓練の受入れ、自衛官募集活動の支援など、国が講ずる防衛政策に対して積極的に協力してきました。これらの支援等を継続するとともに、国が防衛力の抜本的強化を進める中において生じる新たな協力や支援要請については、市民生活への影響を考慮しながら検討していきます。



令和7年7月に行われたむつ湾掃海訓練の様子

防衛政策を推進することは、市民生活に直接的・間接的に影響を及ぼすため、市民の理解・協力が必要不

可欠であり、これらの防衛政策の実効性を確保するためにも自衛隊における理解促進活動に協力し、必要に応じて住民説明や情報公開を求めるなど、市民と自衛隊の信頼関係構築のために協力していきます。

② 自衛隊員定員規模の維持・体制強化への取組

自衛隊の定員規模の維持や体制強化の効果として、国防体制がより一層強固なも

のとなること、外部からの脅威に対する抑止力も高まること等が挙げられ、もって国全体の安全保障が強化されるだけでなく、地域の安全・安心にも大きく寄与することから、海上自衛隊における護衛艦の追加配備等を含めて、自衛隊の定員規模の維持及び体制強化について、国に対する要望活動等の取組を継続します。

③ 教育隊の設置への取組

海上自衛隊には、4つの教育隊が設置されていますが、海上自衛隊の主要な基地の一つである大湊基地は、唯一教育隊を有していません。

大湊基地では、北国という寒冷地の特性を生かして、雪中訓練等の厳しい自然環境下における対応力や機材運用等の訓練を実施することが可能であり、冬季特有の課題に即応できる体制の構築を図ることが期待できるほか、地域に根ざした自衛隊員の人材育成や地域で勤務する自衛隊員の確保につながることから、教育隊の設置について、国に働きかけていきます。

(2) 「自衛隊員や隊員家族等への支援」への取組

① 自衛隊員の処遇・勤務環境の改善等の要望活動

全国的な人手不足により自衛隊員の確保は喫緊の課題となっており、その中でも当地域は半島地域であること等による都市機能の整備が不十分な条件不利地域であるため、当地域で勤務する自衛隊員の手当を始めとした給与面の処遇・勤務環境の改善等を国に対して求めていきます。

② 隊員家族あんしん協定による支援

市では、自衛隊員が災害時等に派遣された際に留守家族が抱く子育てや介護等に対する不安感を少しでも軽減し、派遣された自衛隊員が安心して任務に専念できるよう「隊員家族あんしん協定」を締結しており、この協定に基づき留守家族に対して支援していきます。

また、災害時等の緊急出動により自衛隊員のこどもたちを一時的に預



市内保育園で実施した実地研修における避難訓練の様子

かることを想定し、こどもの保育をする隊員に対し児童保育業務の実地研修や「こども一時預かり所開設運営訓練」を定期的を実施しており、児童保育の技能を習得させるなど、今後も家族支援体制の整備に努めていきます。

③ 退職自衛官の再就職へのサポート

民間に比べ早期に定年や任期満了を迎える退職自衛官について、自衛隊員が持つスキルや資格、経験等を生かせる環境を整え、様々な職種で活躍できるような体制整備が必要です。

市では、市内小中学校の用務員としての採用や市内の民間企業への就職など、官民連携した体制で市内での再就職をサポートすることにより、自衛隊員として過ごした地域において、引き続き安心して生活できるよう支援していきます。

(3) 「自衛隊基地の所在地であることを生かしたまちづくりの推進」への取組

① 「地域の安全」の視点による取組

i 災害発生時における迅速な対応

市の地域内において各種災害等が発生した場合は、むつ市地域防災計画に基づき災害対策本部を設置しますが、災害対策本部に自衛隊や県等からリエゾンが派遣され、情報を共有しながら対応することとなっています。

市単独では十分に被災者の救援等の応急措置を実施できない場合においては、県知事への自衛隊災害派遣要請等を行うことで、自衛隊の部隊が派遣され、自衛隊による救援活動が行われます。

市では、この要請を迅速かつ的確に行うとともに、災害による人的被害や地域被害を軽減して市民の安全・安心を確保するため、あらゆる措置を講じます。

ii 防災訓練等による防災体制の強化並びに防災意識の醸成及び高揚

市では、総合防災訓練等の実施により、防災体制の強化や防災意識の高揚を図っています。

訓練の実施に当たっては、むつ市総合防災訓練は平成17年度から、むつ市防災図上訓練は令和2年度から、自衛隊より全面的な支援をいただきながらそれぞれの立場で共に防災体制の強化を図ってきました。

また、市が実施するイベントにおいても、積極的に自衛隊の装備品の展示や体験ブースを設置いただいております。市民の防災意識の向上につながっています。

今後も、自衛隊に対して地域における防災意識啓発活動への参画や支援を求めながら、地域の災害に対する備えと対応力の向上に取り組んでいきます。



むつ市総合防災訓練・防災フェアでの自衛隊ブース

② 「地域の経済」の視点による取組

i 防衛関連産業の新規誘致

下北地域における新たな産業興しや企業の技術力向上、地域内の雇用創出を目的として、市、むつ商工会議所、地元企業等で構成される下北・むつ市企業連携協議会において、令和6年度から新たに防衛関連事業への参入と企業誘致に向けた活動を実施しています。

今後も下北地域における働く場の創出に向けて、市議会や民間の関係団体等と連携して、効果的な活動を展開していきます。

ii 地元企業の受注機会の拡大

建設工事等を始めとする防衛関連事業に係る地元事業者への発注については地域経済に大きく貢献するものであり、地域として大きな期待を寄せています。

一方で、防衛省による物品発注等の中央一括調達の開始に伴い、工事や物品納入における地元事業者の受注数の落ち込みが大きく、地元経済への大きなマイナス要因となっています。



海上自衛隊大湊基地内の1万トンドック

受注機会が多いほど地元事業者の技術力・企業力の向上にもつながることから、地域の現状を訴え、自衛隊の各種調達に係る地元発注や建設工事を始めとす

る防衛関連事業の地元企業及び地元企業が参画する共同企業体への発注等について国に要望し、地域産業及び地域経済の活性化につなげます。

また、艦船、機器の修繕・メンテナンス等の業務は、地元経済に大きく寄与することになりますが、艦船修理契約における契約額に限っては、市内事業者との契約額の割合が格段に低くなっているため、地域での艦船修理業務の増大に向けて、国に対する要望活動等の取組を継続します。

③ 「地域の活力」の視点による取組

i 地域コミュニティ等の活性化

自衛隊員は、市や民間団体が主催するイベントへの協力や、大湊音楽隊によるコンサートの開催等、様々な場面を通じて、市民と深く交流を重ねています。地方の過疎化が進む中、相当規模の人員が所在する自衛隊基地の存在により、地域コミュニティの維持や活性化が期待できます。

また、自衛隊員は、市の伝統行事である「大湊ネブタ」を含めて、地域行事等に毎年積極的に参加し、地域の活性化に貢献しています。全国的に後継者不足や若者の関心低下等により大切に受け継がれてきた伝統行事の衰退が進んでいる中で、自衛隊員は心強い存在です。引き続き地域への愛着を高めるとともに、地域の魅力を向上させる取組を一体となって推進します。

ii ジオパーク活動の推進

下北ジオパークのエリアの一つである「大湊・芦崎エリア」は、地形が防御に向いている等の理由で、明治時代から旧海軍（現在の海上自衛隊）の港として使用されてきました。



鳥のくちばしのようにのびた地形の「大湊・芦崎ジオサイト」

海上自衛隊大湊地区隊と下北ジオパーク推進協議会は、「下北ジオパークに関する包括連携協定」を

締結しており、自衛隊と連携・協力した下北ジオパークの魅力発信など、自衛隊基地が所在するジオパークの強みを生かした活動を推進します。

iii 自衛隊グルメの魅力発信

海上自衛隊大湊基地所属の艦艇等各部隊で提供されているカレーを部隊から



おおみなと海自カレーと大湊 Sora 空っ! は認定市内飲食店で提供

直接店舗に伝授された秘伝のレシピをもとに忠実に再現した「おおみなと海自カレー」や、航空自衛隊直伝の下北半島産のこだわりの食材を使用した「大湊Sora空っ!」は、旧海軍部隊のレシピを再現した「大湊海軍コロッケ」と併せて市のご当地グルメとして市民だけでなく観光客にも定着

しています。自衛隊グルメの魅力を全国に広く発信し、地域活性化へとつなげていきます。

iv 自衛隊基地の観光資源としての活用

自衛隊基地周辺には石積づくりの日本最古のアーチ式ダムがある大湊水源地公園、石造りの洋風建物である北洋館等の歴史的建造物、実在した海軍大湊要港部庁舎をイメージして建設した安渡館、海上自衛隊の艦艇を一望することができる海望館など、多様な観光資源が集積しています。

これらに加えて、海上自衛隊基地周辺を海上から望む観光クルーズも自衛隊基地が所在する特性を生かした魅力的な観光コンテンツとなることが考えられることから、観光資源としての効果的な活用について、自衛隊にも協力を仰ぎながら、研究していきます。

6. 関連団体との連携体制

基地政策の実効性を高めるためには、自衛隊や関係省庁、関係自治体はもとより、関連する団体との連携・協働が不可欠です。

市では、各団体等との連携体制を構築し、多様な視点を取り入れるとともに、相互に情報を共有しながら、一体となって取り組んでいきます。

(1) 自衛隊基地が所在する他自治体との連携

市では、自衛隊基地が所在する地方公共団体で構成される協議会に属し、自衛隊基地が所在することによる諸課題について連絡調整を行うとともに、課題解決のための国への要望活動等を行っています。

① 全国基地協議会

「基地交付金に関する調査研究並びにその具体的解決策を強力に推進すること」を目的として、昭和30年11月16日に設立されました。

駐留軍及び自衛隊が所在する地方公共団体をもって組織され、令和7年4月1日現在、232都市町村が加入しています。

② 防衛施設周辺整備全国協議会

「自衛隊等の行為によって生ずる損失の補償、障害の防止及び防衛施設周辺の整備を促進することにより、関係住民の生活の安定及び福祉の向上を図ること」を目的として昭和41年7月1日に設立されました。

防衛施設が所在する及びその周辺の地方公共団体をもって組織され、令和7年4月1日現在、242市町村が加入しています。

(2) むつ市議会との連携

むつ市議会からは、これまでも自衛隊に係る取組を進めるに当たって、意見を伺い、調整等を行うとともに、国に対しては市当局と市議会が一体となった要望活動を行ってきました。

車の両輪のように「行政」と「議会」それぞれの使命により、今後も市議会との協働による推進を図りながら要望活動等の取組を継続し、地域社会の活力ある発展を目指します。

(3) むつ商工会議所、下北・むつ市企業連携協議会等の商工団体との連携

むつ商工会議所とは、産業振興について活発な意見交換等を行っており、自衛隊に係る取組についても幅広い政策提言等をいただいています。

また、むつ商工会議所、下北・むつ市企業連携協議会を含めた商工団体とは、市議

会と同様に国に対して一体となって要望活動を行っているほか、練習艦隊の歓迎イベントの実施への協力など、連携して自衛隊の活動を支援しています。

今後も協働して防衛産業をはじめとした地域産業の発展による地域経済の活性化に努めます。

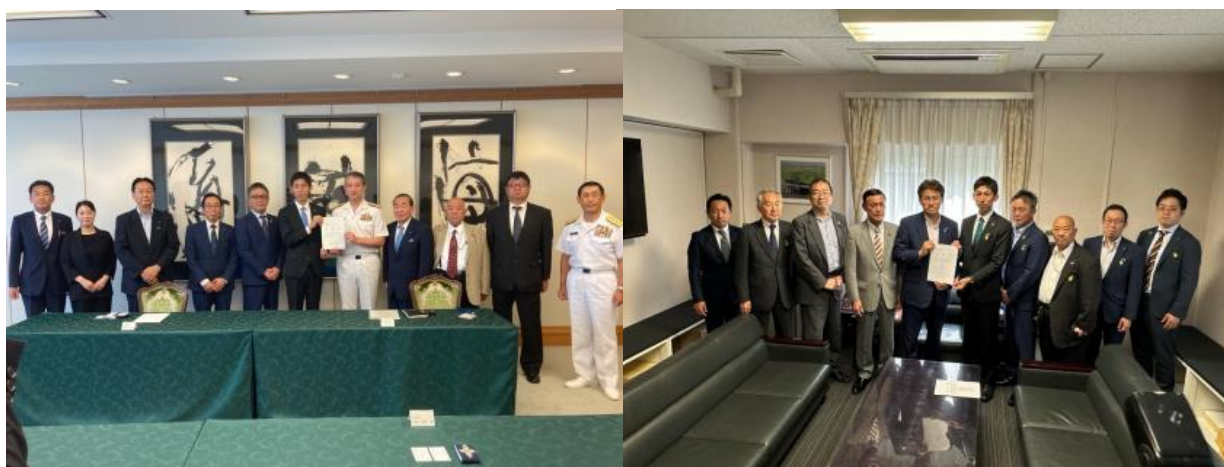
(4) 自衛隊関連団体との連携

市には、むつ自衛隊支援団体連絡協議会を含めて、防衛意識の高揚や防衛基盤の育成強化等を目的とした数多くの民間団体が自衛隊の活動を支援し、協力しています。

これからも練習艦隊の歓迎行事を始めとした自衛隊関連行事、自衛隊家族への支援、自衛隊退職者の雇用等の様々な場面において、次に掲げる関係団体と連携しながら自衛隊の活動を支えていきます。

【主な自衛隊関連団体】

- むつ自衛隊支援団体連絡協議会
- むつ市自衛隊家族会
- むつ市防衛協会
- むつ地区自衛隊退職者雇用協議会
- むつボリューム会
- 大湊水交会
- 大湊防衛経友会
- 隊友会下北支部
- むつ地区自衛官募集事務連絡協議会



関係団体と行った要望活動の様子

参考資料 ①

◎ 自衛隊に関連する協定

【大湊飛行場周辺において航空事故及び航空事故に伴う災害が発生した場合の連絡調整体制の整備に関する協定】

協定締結者	青森県、青森県警察本部、青森海上保安部、むつ市、下北地域広域行政事務組合消防本部、海上自衛隊大湊地方総監部（締結当時）
協定締結日	昭和55年4月12日
協定内容	大湊飛行場周辺において航空事故及び航空事故に伴う災害が発生した場合の連絡調整体制の整備に関する協定 ・ 救急救助や消防等の被害拡大防止、現場保存、警備のための自衛隊の協力 ・ 事故機乗員の捜索・救助等の関係機関の協力 ・ 被害調査等の現場立入等への協力

【隊員家族あんしん協定】

協定締結者	むつ市、海上自衛隊大湊地方総監部（締結当時）、航空自衛隊第42警戒群（締結当時）
協定締結日	平成26年12月1日
協定内容	① 自衛隊内に設置する臨時保育施設への支援 ② 利用可能な保育、託児施設等の情報提供及び紹介 ③ 要介護家族の介護サービス等の情報提供及び紹介 ④ その他派遣の状況に応じ必要と思われる事項

【下北ジオパークに関する包括連携協定】

協定締結者	下北ジオパーク推進協議会、海上自衛隊大湊地方総監部（締結当時）
協定締結日	令和5年6月9日
協定内容	・ 下北ジオパークの保全・教育・地域振興の活動推進への協力 ・ 来訪者に対する下北ジオパークの普及・活動紹介への協力

参考資料 ②

◎ 要望活動の実績

○令和7年度：2回（令和8年3月13日現在）

要望日	要望内容	要望者	要望先
R8. 3. 11	1. 国有提供施設等所在市町村助成交付金の増額について 2. 海上自衛隊教育隊の誘致について 3. 防衛関連事業の地元発注等への更なる配慮について 4. 大湊基地1万トンドックへの常設型クレーンの設置について 5. 海上自衛隊第25航空隊の滑走路の延伸及び共用化に係る調査・研究への協力について	市（1～5） 市議会（1～5） 下北・むつ市企業連携協議会（3・4のみ） むつ市コミュニティ空港整備構想検討協議会（5のみ）	防衛大臣 青森県選出 国会議員
R7. 7. 17	・防衛関連事業の地元発注等への更なる配慮について ・大湊基地1万トンドックへの常設型クレーンの設置について ・海上自衛隊教育隊の誘致について ・むつ運動公園スポーツ広場改修工事（人工芝化）に伴う財政措置について	市 市議会	防衛大臣 青森県選出 国会議員

○令和6年度：4回

要望日	要望内容	要望者	要望先
R7. 2. 14	・大湊地区隊（仮称）の体制維持・強化及び所属隊員の処遇改善について ・大湊基地1万トンドックへの常設型クレーンの設置について	市 下北・むつ市企業連携協議会（市、むつ商工会議所、（一社）青森県建設業協会下北支部、むつ・下北鉄工組合、（協）むつ管工事協会、下北郡電気工事工業協同組合、下北塗装組合、（一社）むつ青年会議所） 大湊艦船造修事業協同組合	防衛大臣 青森県選出 国会議員

R6. 8.16	芦崎湾のナマコ増殖場整備に伴う財政措置について	市	防衛大臣 青森県選出 国会議員
R6. 7.25	大湊地区総監（仮称）の海将としての継続配置、大湊地区隊（仮称）への護衛艦（FFM）2隻の追加配備及び当市にゆかりのある名称のイージス・システム搭載艦1隻の新規配備並びに大湊地区隊（仮称）の定員規模の維持・体制強化について	市 市議会	防衛大臣 青森県選出 国会議員
R6. 5.30	大湊地区総監（仮称）の海将としての継続配置、大湊地区隊（仮称）への護衛艦2隻の追加配備及び大湊地区隊（仮称）の定員規模の維持・体制強化について	市 市議会 むつ商工会議所 むつ自衛隊支援団体連絡協議会 下北建設業協会 むつ・下北鉄工組合 下北郡電気工事工業協同組合 協同組合むつ管工事協会 下北塗装組合 一般社団法人むつ青年会議所	防衛大臣 自由民主党 本部 青森県選出 国会議員

○令和5年度：4回

要望日	要望内容	要望者	要望先
R6. 2.16	1. 事務用品調達に係る地元発注等への更なる配慮について 2. 建設関連事業等に係る地元発注等への更なる配慮について 3. 防災食育センター整備に伴う財政措置について	下北・むつ市企業連携協議会 （市、むつ商工会議所、（一社）青森県建設業協会下北支部、むつ・下北鉄工組合、（協）むつ管工事協会、下北郡電気工事工業協同組合、下北塗装組合、（一社）むつ青年会議所）	東北防衛局
R6. 1.25	大湊地区総監（仮称）の継続配置及び大湊地区隊（仮称）の体制維持・強化について	市 市議会	防衛大臣 青森県選出 国会議員
R5.12.13	・事務用品調達に係る地元発注等への更なる配慮について ・建設関連事業等に係る地元発注等への更なる配慮について	市 むつ商工会議所	防衛大臣 青森県選出 国会議員

R5. 8.18	<ul style="list-style-type: none"> ・大湊地方総監の継続配置及び大湊地方隊の体制維持・強化について ・防衛関連事業の地元発注等への更なる配慮について ・防衛産業の集積について 	<ul style="list-style-type: none"> 市 市議会 むつ商工会議所 むつ自衛隊支援団体連絡協議会 下北建設業協会 	<ul style="list-style-type: none"> 防衛大臣 青森県選出 国会議員
----------	---	--	--

○令和4年度：3回

要望日	要望内容	要望者	要望先
R5. 2.16	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊の事務用品調達に係る地元発注等への更なる配慮について ・海上自衛隊大湊基地港内等の浚渫及び艦艇配備について 	<ul style="list-style-type: none"> 下北・むつ市企業連携協議会 むつ市 	<ul style="list-style-type: none"> 防衛大臣
R5. 1.26	<ul style="list-style-type: none"> 陸奥湾における掃海訓練の継続実施について 	<ul style="list-style-type: none"> 市 市議会 	<ul style="list-style-type: none"> 海上自衛隊 掃海隊群司令
R4. 7.27	<ul style="list-style-type: none"> 海上自衛隊大湊基地港内等の浚渫及び大型艦艇の配備について 	<ul style="list-style-type: none"> 市 市議会 	<ul style="list-style-type: none"> 防衛大臣 青森県選出 国会議員

参考資料 ③

◎財政的優遇措置

防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づき、自衛隊基地等の防衛施設が設置又は運用されることにより、その周辺地域の住民の生活又は事業活動が阻害されると認められる場合において、その障害の緩和に資するため、生活環境施設又は事業経営の安定に寄与する施設の整備について、国からその費用の一部の補助が受けられることができるとされています。

また、防衛施設のうち、その設置又は運用がその周辺地域の開発に及ぼす影響の程度及び範囲その他の事情を考慮し、公共用の施設の整備又はその他の生活環境の改善若しくは開発の円滑な実施に寄与する事業について、特に配慮する必要があると認められる防衛施設があるときは、特定防衛施設周辺整備調整交付金が交付されることとされています。

市では、これまでも防衛施設の設置又は運用による障害の防止等のため、財政的優遇措置としての国からの補助金等を、防災食育センター建設事業や漁業用施設（築いそ）設置助成事業、インフルエンザ予防接種費用助成事業等に活用してきましたが、今後も市民生活のために有効活用していきます。

○これまでの活用状況等

【特定防衛施設周辺整備調整交付金】

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
金額	9,944万7,000円	9,982万4,000円	1億379万8,000円
充当事業	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーター配置事業 ・小中一貫教育非常勤講師配置事業 ・外国語指導助手配置事業 ・インフルエンザ予防接種費用助成事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語指導助手配置事業 ・インフルエンザ予防接種費用助成事業 ・むつ来さまい館等管理運営事業 ・むつ市小中学校維持運営事業（燃料費） 	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ予防接種費用助成事業 ・むつ来さまい館等管理運営事業 ・むつ市小中学校維持運営事業（燃料費） ・むつ市妊婦健診委託事業

【防衛施設周辺民生安定施設整備事業補助金】

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
金額	1,286万4,000円	3億円	19億5,375万6,000円
充当事業	・防災食育センター建設事業（実施設計）	・防災食育センター建設事業	・防災食育センター建設事業

【国有提供施設等所在市町村助成交付金】

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
金額	8,098万円	8,008万3,000円	8,074万7,000円

【施設区域取得等事務委託金】

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
金額	50万円	70万円	70万円

参考資料 ④

※契約情報は当初契約時点の内容

◎自衛隊基地の主な整備状況

自衛隊が多様な任務に対応するためには、環境整備が重要となりますが、海上自衛隊大湊基地では、大型艦艇の出入港ができるよう、芦崎湾の浚渫工事及び運用に必要な栈橋改修等これまで市や市議会からの防衛省に対する要望事項も含めた基地整備について実施されており、これまでの主な整備工事は次に掲げるとおりです。

【芦崎湾浚渫工事】

海上自衛隊大湊基地において、大型艦船の出入港のため、芦崎湾浚渫工事が進められています。浚渫工事によるナマコ漁への影響が懸念されますが、「防衛施設周辺民生安定施設整備事業補助金」を活用して移設先の漁場を整備するなど、地域の産業を守りながら進めていくこととされています。

工事名	海自大湊(6)浚渫工事（その1）	海自大湊(6)浚渫工事（その2）	海自大湊(6)浚渫工事（その3）
発注時期	令和6年度		
工期	令和7年2月19日～令和10年3月15日		
契約業者	五洋建設・東洋建設建設共同企業体	東亜建設工業・りんかい日産建設・不動テトラ建設共同企業体	みらい建設工業・株木建設建設共同企業体
契約金額	67億3,420万円（税込）	53億4,600万円（税込）	40億5,460万円（税込）

【栈橋新設等工事】

浚渫工事と同様に大型艦船の出入港を可能とするため、大型艦船を安定的に運用するための係留施設である栈橋工事について、栈橋の撤去及び新設のための整備が進められています。

工事名	海自大湊(6)栈橋改修土木その他工事	海自大湊(7)栈橋新設等工事
発注時期	令和6年度	令和7年度
工期	令和7年1月29日～ 令和8年3月15日	令和7年10月4日～ 令和9年10月31日
契約業者	山内土木（株）	五洋建設・東洋建設建設共同企業体
契約金額	7億4,360万円（税込）	55億9,900万円（税込）

【火薬庫の整備】

防衛省では、戦後、最も複雑な安全保障環境に直面する中で「持続性・強靱性の強化」のため、弾薬の生産能力の向上及び製造量に見合う火薬庫の確保を進めることとしており、部隊運用上の利便性、自衛隊用地内での地積の有無及び保安距離の確保の可否等を総合的に勘案し、海上自衛隊大湊基地に火薬庫を新設することを公表しています。令和4年度に火薬庫2棟が着工されたほか、令和8年度には4棟の新設に着工することが公表されています。

工事名	海自大湊(4)火薬庫新設造成工事	海自大湊(4)火薬庫新設土木その他工事
発注時期	令和4年度	
工期	令和4年10月29日～ 令和6年4月30日	令和5年1月7日～ 令和6年8月31日
契約業者	(株)コウナン	(株)鴻池組東北支店
契約金額	1億8,194万円(税込)	6億9,300万円(税込)

工事名	海自大湊(5)火薬庫新設土木その他追加工事	海自大湊外(5)火薬庫新設等電気その他工事
発注時期	令和5年度	
工期	令和5年9月9日～ 令和7年11月30日	令和6年1月24日～ 令和7年11月30日
契約業者	(株)鴻池組東北支店	(株)ミワ電工
契約金額	4億7,410万円(税込)	2億1,780万円(税込)

【艦船修理施設整備】

海上自衛隊大湊基地には海上自衛隊で唯一自前の「1万トンドック」を保有しています。艦艇等の修理や整備が基地内で行えることは国防上において重要であると同時に地元企業の受注機会の増加や護衛艦に所属する自衛隊員の流出防止等に寄与することとなりますが、一方で、当該ドックを活用した艦船修理については、現在の規模では大湊基地に配属されている護衛艦のうち入渠可能なものは少なく、実施できる修繕や検査等も様々な制約を受けるため、限定的な実施にとどまっています。

工事名	海自大湊(4)ドック改修土木工事	海自大湊(5)ドック改修土木工事
発注時期	令和4年度	令和5年度
工期	令和4年11月12日～ 令和6年11月30日	令和5年12月14日～ 令和7年6月30日
契約業者	山内土木(株)	五洋建設(株)東北支店
契約金額	1億3,948万円(税込)	4億3,120万円(税込)

工事名	海自大湊(7)ドック改修土木工事	海自大湊(7)ドック改修電気工事
発注時期	令和7年度	
工期	令和8年2月6日～ 令和9年3月15日	令和8年2月6日～ 令和9年3月15日
契約業者	五洋建設(株)東北支店	(株)ミワ電工
契約金額	4億5,430万円(税込)	1億8,700万円(税込)

【市内道路整備】

防衛施設が集中する大湊地区においては、道路が狭隘である上に多くの車両が通行し、慢性的な渋滞が発生していますが、青森県では、大湊Ⅱ期バイパスの令和9年度までの全線完成を目指しています。アクセスが向上することで、平素における円滑な自衛隊の通行はもとより、災害対応等の効果的な実施が見込まれます。

田宇湊大國奥陸



釜臥山麓より望む芦崎

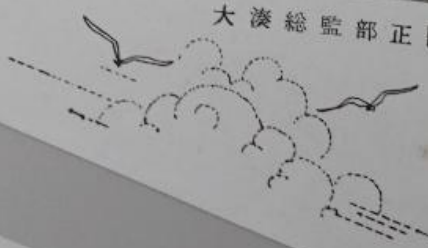
大湊観光協会撰



大湊え警備船入港



大湊総監部正門



令和8年3月19日 策定